

## 令和 6 年度事業計画

本研究所は、平成 29 年 3 月に創立 60 周年を迎え、令和 5 年度は公益財団法人としての 10 年目の活動を終えるが、公開シンポジウムでは新しい「世界」シリーズが始まり、多くの参加者を迎えることができた。数年延期していた国際交流シンポジウムをドイツで開催することができた。哲学講座については、オンライン配信が主流となり、東京や仙台から講師を招くことができた。年報『文明と哲学』の刊行を着実に遂行し、公開シンポジウム「文明」シリーズの成果本も刊行できた。令和 4 年度に実施した「西田・西谷ワークショップ」並びに令和 5 年の「自然シンポジウム」の記録集を刊行した。

令和 6 年度においては、これまでの本研究所の公益目的事業を堅実に継続し、設立 70 周年に向けて、今後の事業展開を検討しながら、事業運営を実施する。

### 1. 日独学術文化に関する研究並びにその助成（定款第 4 条第 1 項第 1 号）

公開シンポジウム

連続テーマ「世界」の 2 回目として、第 32 回公開シンポジウムを開催する。

### 2. 日独学術文化に関する図書雑誌の編集及び出版刊行（定款第 4 条第 1 項第 2 号）

年報『文明と哲学』第 17 号を刊行する。

「共同研究 共生 法と心身」を刊行する。

### 3. 日独学術文化に関する講習会、講演会及び談話会等の開催（定款第 4 条第 1 項第 3 号）

哲学講座の開講

一般市民、学生、研究者を対象とする哲学講座を、初夏、初秋、初春の 3 期に開講する（1 期 6 回）。

オンライン講義の開講

役員が講師を務め、一般市民、学生、研究者を対象とするオンライン配信のみの講義を随時開講する。

### 4. 日独学術文化に関する図書及び資料の収集並びに公開（定款第 4 条第 1 項第 4 号）

『所報』第 13 号を発行し、関係者及び関係団体へ配付する。

ホームページに日常の活動を随時掲載し、SNS による発信を充実させる。

地下書庫の蔵書について検索機能を備えた公開体制を整える。

5. 日独学術文化に関する研究者の招待、派遣及び交換（定款第4条第1項第5号）

哲学系においては、デュッセルドルフ・恵光ハウス、テュービンゲン大学・学際的・間文化的研究センター（CIIS）との連携を継続する。

医学系においては、原則として役員の在籍する国内の大学等と連携して、主にドイツ語圏から研究者を招待し、講演会、シンポジウム等を開催する。

法学系においては役員の在籍する国内の大学等と連携して、主にドイツ語圏から研究者を招待し、講演会、シンポジウム等を開催する。

ハノーヴァー哲学研究所との連携を継続する。

以上